

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第15号 2019年12月20日 発行

サイエンス・アクセス講演会

令和元年12月10日(火)

1学年を対象に本校志学館でサイエンス・アクセス(SA)講演会を実施しました。今年のSA講演会は、1年生でのSA・探究学習を土台に、2年生で行う課題研究の視野を広げ、課題研究の進め方や考え方など基礎となる能力や視点を育成し、課題研究への滑らかな接続を図ることを目的にしました。



例を挙げ、かみ砕いて説明をする酒井先生

講師に東北大学大学院生命科学研究科准教授の酒井聡樹先生を迎え、「これから課題研究を始める水沢高校生のために」の演題で講演をしていただきました。酒井先生は、「これから研究を始める高校生と指導教員のために：研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方」など、課題研究を進める上で参考になる本を執筆しています。生徒達は、酒井先生の講演を聴いたことで、課題研究に対してのモチベーションを上げていました。

《生徒の感想の一部》

- 今回の講演会では、来年から行う課題研究について、研究の現場にいる人から大切なことを聞けてとても有意義でした。僕は来年の課題研究ではその研究についての意義をしっかり示し、「自分の興味」を「他人の興味」にできるように、興味を持ったからだけではないようにしたいです。今回は本当に来年への意識が高まるいい講演会でした。来て下さった先生には感謝したいです。
- 今回の講演会はとても役立つものだったと思う。なぜなら、自分の知らなかったことが沢山あったからだ。もし今日の講演会を聞かないで課題研究をしたら、と思うと少し怖くなった。SAで行った調べものでは、今日の講演会で教わったタブーを犯してしまっていたので反省したい。2年生の時にやる課題研究では、今日教わった事を生かして中身の濃いものにしたい。課題研究に対する意欲も湧いたし、日々の学習に対する意欲も湧いたいい講演会だったと思う。
- 今日の講演会の話聞き、これからの人生、何か未知のことを研究することがあるので、これに向けて課題研究をしっかりとやっていかないといけないと思った。また、研究とは自分の興味だけでなく、何らかの成果を得る必要があると分かった。何らかの問題に取り組むとしたら、その問題に取り組む意義や、取り組み終わったとき何の成果が得られるかを明確にし、問題に取り組んでいかなければならないと分かった。
- 講演会を聞いて、仮説を立てることと、研究記録を取っておくことの大切さを学ぶことができた。仮説を立てることで目標が決まり、それをどのようにして調べるか考えることができるし、研究記録を取っておくことでデータの解析や後で見直しをすることで課題や成果を見つけたり、情報を共有したりすることができるからだ。これら以外にも学んだことがたくさんあるので、それらを生かして、内容の濃い適切な文章の課題研究ができるように頑張りたい。
- 2年生から、課題研究に取り組みますが自分が思っていたのよりも、内容が深いなと思いました。自分が解決したい問題について解いていくのはもちろんですが他者にも興味をもってもらうことが大切だということが分かりました。何を研究対象にするのか、研究の意義は何かというのを明確にし、研究の成果をいかに伝えられるかということも大事だと分かりました。自分の興味だけではなく、他者の興味も引くような研究ができるようにしたいと思いました。